

# 四半期報告書

(第50期第2四半期)

自 平成24年7月1日  
至 平成24年9月30日

**MESCO**

**三井金属エンジニアリング株式会社**

東京都墨田区錦糸三丁目2番1号

(E00303)

# 目 次

頁

表 紙

第一部	企業情報 .....	1
第1	企業の概況 .....	1
1	主要な経営指標等の推移 .....	1
2	事業の内容 .....	1
第2	事業の状況 .....	2
1	事業等のリスク .....	2
2	経営上の重要な契約等 .....	2
3	財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	3
第3	提出会社の状況 .....	4
1	株式等の状況 .....	4
(1)	株式の総数等 .....	4
(2)	新株予約権等の状況 .....	4
(3)	行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	4
(4)	ライツプランの内容 .....	4
(5)	発行済株式総数、資本金等の推移 .....	4
(6)	大株主の状況 .....	5
(7)	議決権の状況 .....	6
2	役員の状況 .....	6
第4	経理の状況 .....	7
1	四半期連結財務諸表 .....	8
(1)	四半期連結貸借対照表 .....	8
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	10
	四半期連結損益計算書 .....	10
	四半期連結包括利益計算書 .....	11
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	12
2	その他 .....	16
第二部	提出会社の保証会社等の情報 .....	17

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月8日
【四半期会計期間】	第50期第2四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）
【会社名】	三井金属エンジニアリング株式会社
【英訳名】	MESCO, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 住 伸一
【本店の所在の場所】	東京都墨田区錦糸三丁目2番1号
【電話番号】	03-5610-7833
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部経理部長 木原 基廣
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区錦糸三丁目2番1号
【電話番号】	03-5610-7833
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部経理部長 木原 基廣
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第2四半期連結 累計期間	第50期 第2四半期連結 累計期間	第49期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高（千円）	11,697,001	8,914,766	25,096,572
経常利益（千円）	40,022	171,764	1,219,694
四半期（当期）純利益（千円）	28,614	81,820	673,987
四半期包括利益又は包括利益（千円）	31,744	112,860	590,305
純資産額（千円）	8,968,751	9,320,755	9,527,313
総資産額（千円）	17,458,597	14,927,621	17,439,390
1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	2.24	6.40	52.75
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額	—	—	—
自己資本比率（％）	51.4	62.4	54.6
営業活動によるキャッシュ・フロー（千円）	3,340,782	△993,286	3,223,044
投資活動によるキャッシュ・フロー（千円）	△94,024	△90,062	△240,281
財務活動によるキャッシュ・フロー（千円）	△193,286	△319,301	△195,746
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高（千円）	6,509,963	4,771,106	6,153,868

回次	第49期 第2四半期連結 会計期間	第50期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額（円）	6.80	8.27

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「売上高」には、消費税等は含まれておりません。
3. 「潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額」については、潜在株式がないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当企業集団（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況

- 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクは、「事業の内容」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より事業区分を変更しておりますが、リスクの内容については重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要やエコカー補助金等の政策効果により、一部に緩やかな回復基調が見られる一方で、欧州の財政危機による世界経済への悪影響、長引く円高、中国経済の減速等により企業業績の悪化が懸念され、先行き不透明な状況で推移いたしました。

建設業界におきましては、民間設備投資の緩やかな回復もあり底堅く推移しているものの、受注における激しい価格競争が継続するなど、予断出来ない経営環境にありました。

このような環境のもと、当第2四半期連結累計期間における当企業集団の売上高は8,914百万円（前年同四半期比23.8%減）となりました。

損益面では、工事原価、及び、販売費及び一般管理費の削減などから、営業利益は139百万円（前年同四半期比932.5%増）、経常利益は171百万円（前年同四半期比329.2%増）、四半期純利益は81百万円（前年同四半期比185.9%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

##### ・エンジニアリング事業

国内の非鉄金属関連工事の受注高が減少したことなどにより、売上高は6,384百万円（前年同四半期比35.4%減）となりました。

また、経常利益は259百万円（前年同期比36.7%減）となりました。

##### ・パイプ・素材事業

パイプ部門において、新幹線融雪用配管、トンネル用消火配管等の大型案件の進行基準による完成増などにより、売上高は2,605百万円（前年同四半期比34.5%増）となりました。

また、経常利益は201百万円（前年同四半期 経常損失90百万円）となりました。

#### (2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー及び財務活動によるキャッシュ・フローが、それぞれ993百万円、90百万円、319百万円の資金の流出となりました。

これに現金及び現金同等物に係る換算差額19百万円を加算した結果、資金は1,382百万円の減少となり、当第2四半期連結累計期間末の残高は4,771百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間は、資金の主な増加要因としては、売上債権の減少に伴う資金の増加4,556百万円などがありましたが、未成工事受入金の減少に伴う資金の減少2,486百万円、仕入債務の減少に伴う資金の減少1,834百万円、未成工事支出金の増加に伴う資金の減少844百万円などの資金減少要因が、これを上回り、最終的に営業活動によるキャッシュ・フローは993百万円の資金の流出（前年同四半期 資金の流入3,340百万円）となりました。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の流出は90百万円（前年同四半期 資金の流出94百万円）となりました。

この主な流出は、有形固定資産取得による支出94百万円であります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の流出は319百万円（前年同四半期 資金の流出193百万円）となりました。

この主な流出は、配当金の支払318百万円であります。

#### (3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当企業集団が対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4)研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当企業集団の研究開発活動の総額は、16百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当企業集団の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,780,000	12,780,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	12,780,000	12,780,000	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	—	12,780,000	—	1,085,350	—	684,400

## (6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
三井金属鉱業株式会社	東京都品川区大崎一丁目11番1号	8,100	63.38
ROYAL BANK OF CANADA TRUST COMPANY (CAYMAN) LIMITED (常任代理人 立花証券株式会社)	24 SHEDDEN ROAD PO BOX 1586 GEORGE TOWN GRAND CAYMAN KY1-1110 CAYMAN ISLANDS (東京都中央区日本橋小網町7番2号)	2,010	15.73
三井金属エンジニアリング社員 持株会	東京都墨田区錦糸三丁目2番1号	300	2.35
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	150	1.17
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	100	0.78
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町一丁目4番2号	100	0.78
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27番2号	100	0.78
三井不動産株式会社	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号	100	0.78
松井茂樹	東京都三鷹市	53	0.41
野村信託銀行株式会社(信託 口)	東京都千代田区大手町二丁目2番2号	46	0.36
計	—	11,059	86.53

(注) 平成23年5月31日付(報告義務発生日は平成23年5月25日)にて、EFFISSIMO CAPITAL MANAGEMENT PTE LTDから株券等の大量保有に関する変更報告書が関東財務局長に提出されておりますが、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には反映させておりません。なお、株券等の大量保有に関する変更報告書の内容は以下のとおりです。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
EFFISSIMO CAPITAL MANAGEMENT PTE LTD	260 ORCHARD ROAD #12-06 THE HEEREN SINGAPORE 238855	1,934,000	15.13



## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,776,000	12,776	同上
単元未満株式	普通株式 1,000	—	—
発行済株式総数	12,780,000	—	—
総株主の議決権	—	12,776	—

## ② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
三井金属エンジニアリング株式会社	東京都墨田区錦糸三丁目2番1号	3,000	—	3,000	0.02
計	—	3,000	—	3,000	0.02

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

## 役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
代表取締役常務取締役 兼 常務執行役員 パイプ・素材事業部長	代表取締役常務取締役 兼 常務執行役員 パイプ事業部長	上田 義則	平成24年6月29日
取締役 パイプ・素材事業部副事業部長 兼 同事業部素材営業部長	取締役 エンジニアリング事業部 営業統括部素材営業部長	平戸 喜一郎	平成24年6月29日

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	1,537,268	1,463,519
受取手形・完成工事未収入金等	※1 6,906,065	※1 4,948,441
未成工事支出金	799,523	1,644,437
商品及び製品	179,309	170,259
材料貯蔵品	246,990	321,625
預け金	4,938,743	3,638,932
繰延税金資産	256,640	257,628
その他	248,356	193,885
貸倒引当金	△1,991	△1,160
流動資産合計	15,110,905	12,637,569
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	473,590	472,104
機械・運搬具	1,624,906	1,679,601
工具器具・備品	871,928	864,248
土地	1,099,000	1,099,000
リース資産	5,443	5,443
建設仮勘定	137,798	100,270
減価償却累計額	△2,608,508	△2,632,081
有形固定資産合計	1,604,159	1,588,585
無形固定資産		
ソフトウェア	83,003	70,100
その他	8,222	8,185
無形固定資産合計	91,226	78,285
投資その他の資産		
投資有価証券	53,462	54,714
繰延税金資産	393,155	395,065
その他	200,746	192,709
貸倒引当金	△14,265	△19,308
投資その他の資産合計	633,099	623,181
固定資産合計	2,328,484	2,290,052
資産合計	17,439,390	14,927,621

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	4,912,791	3,080,340
未払法人税等	361,815	56,696
未成工事受入金	328,528	439,567
賞与引当金	342,600	332,681
役員賞与引当金	26,000	—
完成工事補償引当金	110,100	106,300
工事損失引当金	82,600	81,200
その他	362,936	251,332
流動負債合計	6,527,371	4,348,118
固定負債		
退職給付引当金	1,268,466	1,174,132
役員退職慰労引当金	92,620	61,562
繰延税金負債	260	264
その他	23,358	22,787
固定負債合計	1,384,704	1,258,746
負債合計	7,912,076	5,606,865
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,085,350	1,085,350
資本剰余金	684,400	684,400
利益剰余金	8,198,621	7,961,024
自己株式	△2,083	△2,083
株主資本合計	9,966,288	9,728,690
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	4,105	2,695
為替換算調整勘定	△443,080	△410,630
その他の包括利益累計額合計	△438,974	△407,934
純資産合計	9,527,313	9,320,755
負債純資産合計	17,439,390	14,927,621

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
売上高		
完成工事高	10,575,124	7,645,522
兼業事業売上高	1,121,877	1,269,244
売上高合計	※1 11,697,001	※1 8,914,766
売上原価		
完成工事原価	9,547,181	6,624,344
兼業事業売上原価	938,979	1,012,317
売上原価合計	10,486,161	7,636,662
売上総利益		
完成工事総利益	1,027,943	1,021,177
兼業事業総利益	182,897	256,926
売上総利益合計	1,210,840	1,278,104
販売費及び一般管理費	※2 1,197,370	※2 1,139,020
営業利益	13,470	139,084
営業外収益		
受取利息	33,761	33,462
持分法による投資利益	—	831
雑収入	6,078	6,816
営業外収益合計	39,839	41,111
営業外費用		
支払利息	100	81
手形売却損	552	—
為替差損	6,600	7,203
持分法による投資損失	2,631	—
貸貸収入原価	3,038	565
雑支出	364	581
営業外費用合計	13,287	8,431
経常利益	40,022	171,764
特別利益		
固定資産売却益	—	650
特別利益合計	—	650
特別損失		
固定資産除却損	311	33,374
会員権評価損	—	3,145
特別損失合計	311	36,520
税金等調整前四半期純利益	39,710	135,893
法人税等	11,096	54,072
少数株主損益調整前四半期純利益	28,614	81,820
四半期純利益	28,614	81,820

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	28,614	81,820
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△218	△1,409
為替換算調整勘定	5,174	32,029
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,826	419
その他の包括利益合計	3,129	31,039
四半期包括利益	31,744	112,860
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	31,744	112,860

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	39,710	135,893
減価償却費	59,347	65,337
のれん償却額	6,395	—
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△650
固定資産除却損	311	26,215
会員権評価損	—	3,145
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,887	4,194
賞与引当金の増減額(△は減少)	14,153	△9,918
完成工事補償引当金の増減額(△は減少)	△109,600	△3,800
工事損失引当金の増減額(△は減少)	86,100	△1,400
退職給付引当金の増減額(△は減少)	29,152	△94,333
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2,047	△31,057
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△20,000	△26,000
受取利息及び受取配当金	△33,761	△33,462
支払利息	100	81
為替差損益(△は益)	5,918	2,157
持分法による投資損益(△は益)	2,631	△831
売上債権の増減額(△は増加)	2,023,924	4,556,538
未成工事支出金の増減額(△は増加)	△665,252	△844,842
その他のたな卸資産の増減額(△は増加)	△78,677	△65,585
仕入債務の増減額(△は減少)	853,858	△1,834,834
未成工事受入金の増減額(△は減少)	1,501,705	△2,486,849
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△78,659	35,557
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△26,448	△65,120
その他の固定資産の増減額(△は増加)	2,053	2,070
小計	3,613,122	△667,494
利息及び配当金の受取額	33,556	33,478
利息の支払額	△100	△81
法人税等の支払額	△305,795	△359,187
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,340,782	△993,286
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△89,094	△94,746
有形固定資産の売却による収入	—	650
無形固定資産の取得による支出	△3,852	△400
定期預金の預入による支出	△201	△463
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△876	4,897
投資活動によるキャッシュ・フロー	△94,024	△90,062
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△190,865	△318,729
リース債務の返済による支出	△2,420	△571
財務活動によるキャッシュ・フロー	△193,286	△319,301
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,843	19,888
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,058,315	△1,382,761
現金及び現金同等物の期首残高	3,451,648	6,153,868
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 6,509,963	* 4,771,106

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 四半期連結会計期間末満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	58,417千円	96,623千円

2 債権流動化に伴う買戻義務額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
	3,000千円	－千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

※1 当企業集団の通常の営業形態として第1、第2四半期に比べ第3、第4四半期における工事の割合が大きくなる傾向があるため、第2四半期連結累計期間の売上高は、第3、第4四半期連結累計期間の売上高と比べ著しく低くなっております。

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
従業員給料手当	306,029千円	318,327千円
賞与引当金繰入額	119,209	125,608
退職給付引当金繰入額	55,918	4,826
役員退職慰労引当金繰入額	12,472	10,882
技術研究費	37,224	16,858



## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金預金勘定	2,142,224千円	1,463,519千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△342,714	△331,345
預け金勘定	4,710,453	3,638,932
現金及び現金同等物	6,509,963	4,771,106

## (株主資本等関係)

## I 前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

## 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	191,651	15.00	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

## II 当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

## 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	319,418	25.00	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	エンジニアリング事業	パイプ・素材事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	9,869,843	1,827,158	11,697,001
セグメント間の内部売上高又は振替高	14,842	109,511	124,353
計	9,884,685	1,936,669	11,821,355
セグメント利益又は損失(△)	409,603	△90,763	318,839

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	318,839
全社費用(注)	△278,816
四半期連結損益計算書の経常利益	40,022

(注) 全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	エンジニアリング事業	パイプ・素材事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	6,381,866	2,532,899	8,914,766
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,046	72,179	75,225
計	6,384,913	2,605,078	8,989,992
セグメント利益	259,389	201,037	460,427

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	460,427
全社費用(注)	△288,663
四半期連結損益計算書の経常利益	171,764

(注) 全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

### 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、エンジニアリング事業部の素材営業部とパイプ事業部を統合する事により、販売網の共有等を図りシナジー効果による営業力強化、及び、人員及び業務の効率化を図ることを目的とした会社組織の変更を行いましたので、報告セグメントを従来の「エンジニアリング事業」及び「パイプ事業」から、「エンジニアリング事業」及び「パイプ・素材事業」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、会社組織変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

#### (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円24銭	6円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	28,614	81,820
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	28,614	81,820
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,776	12,776

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

#### (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月8日

三井金属エンジニアリング株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木村 弘巳 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中井 修 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三井金属エンジニアリング株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三井金属エンジニアリング株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。